

OPINION

中部経済新聞

ウクライナ自動車関連業界の使節団が3月10日から同20日まで来日した。その代表者から訪日報告が4月半ばに届いており、3回に分けて紹介する。中部経済新聞には、訪問前後に紹介記事が数回掲載されている。

ナビゲーター

グローバル化が急速に進展する市場での国際的な成功には、多様なビジネス文化を受容し、理解することが不可欠です。今年2月、東京で開催されたウクライナの経済的な発展と復興に関する会議は、日本とウクライナの関係が重要な節目を迎えた機会として

日本への期待
世界各地から

其
86

記憶されることになるはず。この会議は両国間の関係強化に資するだけでなく、とくに自動車産業分野での2国間関係強化への取り組みを強調するいくつかの覚書が調印されました。

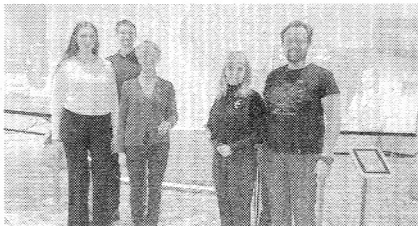
この重要イベントに続き、ウクライナ自動車・モビリティ・クラスター(UAMC)は日本に視察団を派遣し、日本のビジネス慣行の複雑な世界について奥深い洞察を得るとともに、貴重なネットワーキングの機会を得ました。この記事では私たちの経験、訪

文化と産業の架け橋に

ウクライナ訪日団から(上)

間内容、重要な学び、日本のビジネスパートナーとの関わりから得た将来の期待について詳しく説明します。

視察団はUAMC輸出提携プログラムの一環として企画されました。自動車産業のさまざまな分野から構成される代表団は、東京や名古屋など日本の主要都市を訪問しました。主なねらいは協力関係の強化と同時に、新しいビジネスチャンスの模索、そして日本の製造業とビジネス文化をより深く理解することでした。



トヨタ会館(豊田市)を視察する訪中団。左から3人目が筆者

11日間にわたる行程は、学習と関係強化のあらゆる機会を最大限に活用できるよう綿

密に計画されました。3月10日に東京に到着後、行程と目的について話し合うオリエンテーションを持ち、その後東京観光ツアーを行いました。寺への参拝に加え、おいしい日本食も楽しみました。

3月11日からは愛知県の訪問です。豊田市では、まずトヨタ会館を視察しました。トヨタ自動車は、ものづくりの本拠地として世界的に著名です。私たちが館内で見た大きな木のようなシンボルは、トヨタの進化した輸送エコシステムを表現していて、トヨタ

生産システムに直接触れる貴重な機会となりました。

訪日中に、トヨタの協力会社の一つを見学し、トヨタ生産システムとカイゼンの実践を目の当たりにしました。素晴らしい発表と工場見学を提供してくださったトヨタケ工業(豊田市)の横田幸四朗社長に深く感謝いたします。この訪問は、製造工程の紹介だけではなくありませんでした。各工程と適用される方式について深く洞察がなされ、すべての社員の役割と価値が強調されました。人間中心のアプローチの奥深さに深く感銘を受けました。

【オルガ・トロフィモバ
ア、リム中産連】

(月曜日に掲載)